# 共生社会をつくる
# 「ひたすらなるつながり」の実践
## ～“福祉のできごと”から“地域のできごと”に～

だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる人間的共感にねざした共生社会の実現をめざして、「ひたすらなるつながり」の理念のもと不断の地域福祉実践を行う。
（「滋賀県社協定款」から）

ひたすらなるつながり
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

**滋賀の縁創造実践センター**
**滋賀県社会福祉協議会**

# コロナ禍によって浮かび上がってきた生きづらさ

❶ 生活格差の拡大
❷ つながりの格差の拡大
❸ 不寛容の増大

生きづらさを抱える人の
深刻化と増大

**コロナ特例貸付事業**（コロナ禍の影響で減収となり生活が苦しくなった方への生活支援策）

貸付事業は、相談・申込受付を担う市町社協との協働により実施。

2020年3月末の受付開始から2022年9月末までの貸付債権数は、約59,000件（約22,000世帯）、貸付総額は、241億円となった。

2023年1月から返済が始まっている。

・コロナ特例貸付申込書には、「子どもたちに食べさせるためのお金がありません。助けてください」との切実な声が記されていました。

・パンデミックが治まり社会全体としては日常のにぎわいが戻っています。

・しかし、平時から相対的に不利な立場にある人たちは、コロナ禍の影響に加え、さまざまな社会の変化のなかで生きづらさを抱えておられることが相談や調査を通じて明らかになっています。

# 特例貸付の申込書に書かれた生活状況や電話相談から

私と夫の収入が減りました。家族が多いためできたら3回目の貸付を希望します。もし可能でしたらお願いします。

年齢的にも再就職への条件が厳しく、ままならない状況。失業保険が切れるまでには仕事を見つけたい。

家族の中に長年ひきこもりで一度も就労をしたことがないものがいるのですが、働けるような場所はあったりするのでしょうか。

子どもが来年から大学に行く予定であり、入学金等の支払いも不安。奨学金の申請もしているが入学が決まれば今年中に支払わなければならないので何か手段はないか。

タクシー運転手の仕事なので何とか今までは福祉サービスと自分の時間を利用して妻の介護を両立させることができていたが、今回収入が減り、それを補うためには妻の介護との両立が困難になる。先行きが全く見えないので大変不安です。

小学校が休校し母子家庭のため働きに出ることができなくなりました。収入がなく大変困っております。給料は手渡しで明細書がありません。求職活動もできる範囲ですすめていきます。

自分の親に生活費の支援を頼むこともできず、貸付で借りたお金は毎日の生活費で出てしまっています。本当は追加で借りたいが、私は働いていてぎりぎり非課税にはならないため、今後の返済で子どもに負担をかけることになるのではと考えると申請をためらいます。

## 数字から見えること

**リーマン時と比較すると、女性からの申請、家族のいる世帯からの申請が多い。**

- リーマン時の女性の利用は14%、コロナ特例では、29.2%
- リーマン時は60%が単身の人。 コロナ特例では、家族のいる人が60%、子どものいる世帯は30%

**コロナ特例利用世帯のうち、ひとり親世帯は、コロナの影響を受ける前から厳しい生活状況にある。**

- 児童のいる世帯平均月収　237,648円（減収前）→　109,404円（減収後）
- ひとり親世帯平均月収　　175,830円（減収前）→　　71,414円（減収後）

## 貸付、フォローアップ支援のなかで見えてきた生きづらさ抱える世帯

①不安定な職種、就労形態により低収入のひとり親世帯

②見守りや家事援助等の支援が必要と思われる子育て世帯

③清掃や警備等のアルバイト収入で生活費を賄っている後期高齢者世帯

④雇用の調整弁になっている派遣労働者

⑤知的障害や発達障害があると思われるが福祉的支援につながっていない人

⑥母国の家族への仕送りや借金返済で生活費がひっ迫する外国人労働者　等々

# 滋賀の子どものほほえむ力サポート事業

コロナ禍の影響によって困窮している世帯の子どもたちが少しでもうれしい気持ちになれるよう、子どもたちに活用していただく商品券を贈る取り組みを行った。
2020年10月末までに集まった寄付は約900万円。
オリジナル募金箱は460か所に設置いただいた。

孫と二人暮らしですが中２の食べ盛りの男の子です。商品券をいただいたら一度おいしいケーキでも食べさせたいと思っています。

商品券が届いたら、毎日我慢ばかりさせてしまっている子どもに、いつもは買ってあげられないおもちゃ付きのお菓子や欲しがっていたおもちゃを買ってあげたいと思います。

顔も知らない誰かの好意、とてもありがたいです。この度はありがとうございました。

私のように身内がそばにおらず一人で子育てをしているひとり親にとって、見えないところでサポートしてくださっている方々がいると実感し、力をいただきました。子どもたちのために大切に使わせていただきます。

僕は中３です。高校受験のため勉強を頑張っています。商品券でノートなどを買うことができました。志望校に合格できるよう頑張ります。

# 女性のつながりサポート事業

県社協は県とともに、経済的な理由などから生理用品の入手に苦労されている方への生理用品の提供をきっかけに、コロナ禍で孤独を感じ社会的に孤立し不安を抱えている女性、必要な支援が届いていない女性に対し、相談支援や居場所の提供を行うことで必要な行政等の支援につなげ、社会とのつながりを回復できるようにサポートする事業を実施している。

ほっこりできる居場所をつくりたい。

人の生きづらさは見えにくいし、見せないようにしている人もおられる。
相談することに慣れていない人、安心して相談できるところが見つからない人もおられる。

この日の子ども食堂は、終日働いているお母さんが来れるように、休みの日で地域の人と出会わなくてもよい時間帯に設定した。

私自身、親さんの抱える大変さがわかっているつもりでしたが、本当に精神的にも肉体的にもしんどい事が接することで伝わってました。
接しないと見えてこないことがたくさんあると思うので、利用者の有無にかかわらず気軽に寄れる居場所は必要だと思った。

対象が決まっている方が行きやすいという人もいれば、だれでもさりげなく行けるところの方がよいという人もいる。
いろんなタイプがあってよいんや。

この人は困っているとか、この人は困ってないって周りが決めることではないんや。

生理用品を求めている人にさりげなくお渡しできる方法、どうしたらいいやろう？

# 子どもの笑顔にはげまされる。

## 遊べる・学べる 淡海子ども食堂

今、県内には少なくとも190か所の子ども食堂が活動されてる。まごころたっぷりの地域食堂で、子どももおとなもつながる。

**あったかいごはん**
**あったかいまなざし**
**うるおいのある**
**地域づくり**

## 遊べる・学べる淡海子ども食堂が大事にしていること

①あったかいごはんを通じて人と人が出会い、つながる垣根のない居場所
②子ども一人ひとりを大事にする場所として
③子どもが遊びや学びを通して育まれる場をめざして
④子どもを見守り育む地域の仲間づくり
⑤さみしさやしんどさを抱える子どもが来られるように

食堂をきっかけに地域の住民がつながり、困っている人、一人ぼっちの人をほうっておかない地域をつくっていこう！

子ども食堂は、子どもを大事にする地域食堂！

ここでは、子どもも、働く世代も、高齢者世代も、皆が主役

## 遊べる学べる
## 淡海子ども食堂は
## 地域の食堂

- さびしい思いをしている高齢者も、若者もここではひとりじゃない「地域食堂」がいいなぁ
- 地域のおとなが自分の得意を生かして、子どもの遊びや学びをサポートしよう。
- おとなの元気づくりにもなっているな。

# ある日の子ども食堂

## はるひがキッズカフェ　2021年12月24日

子ども15人、おとな6人、スタッフ7人
カレー、生ハムサラダ
みんなでピンポン、虫歯の紙芝居
・今回は久しぶりにみんなで食事をして、そのあと遊びもできてとても楽しかった。保護者の参加が思ったより多かった。ボランティアスタッフ募集しています。

## ふか輪っこ　2022年1月5日

子ども6人、おとな1人、スタッフ5人。 ピザもち、具たくさんのみそ汁
書き初め教室（毛筆の指導をしていただく）、お正月遊び
・ちょっとつまらなそうにしていた6年生男子。親に言われてきているのかなと思っていたら、スタッフから「いや結構楽しんでるで～！」という見方がありました。

## きのもと子ども食堂　2022年1月13日

子ども18人、おとな6人、スタッフ9人
おでん（大根、サトイモ、こんにゃく、ちくわなど）、おにぎり三種（ゆかり、さけ、のり）
デザート（バナナと干し柿）
・寒さと雪の中での開催となり弁当の注文数も少なかったです。
・味がよくしみ込んだおでんになるよう朝から調理にかかりました。スタッフみんなが元気にそろって調理できたことをうれしく思いました。ただ当分、弁当配食が続くようなのが残念でなりません。

# 子ども食堂は、「ひたすらなるつながり」の拠点

## 地域の中で人々が子どもを真ん中において集い、心が元気になれる場所

年寄りばっかりの地域やけど、地域の集まりに子どもがいるってええなぁ。

ルールは大事やけど、子ども食堂のよさはビシッと線を引かないゆるやかさだと思っている。

子どもの心は傷つきやすい。だからこそ、子ども食堂は、どの子にとってもうれしくて楽しい場所にしたいと思う。

若い人らもたいへんやなぁ。

それぞれの家のなかのほんとうのことは簡単にはわからん。何事も決めつけはせんとこう。

外で出会ったときに、初めてあいさつし合えたわ。

ボランティア活動は家族の理解あってこそやなぁ。

# 子ども食堂は「ひたすらなるつながり」の拠点

# 「貧困」という生活課題に取組むことの難しさ

子どもと子どもをもつ世帯に対する政策は、ユニバーサルな方向性が優先されている。それは大事なことである。
しかしその結果、財源の優先度から後まわしにされている福祉的支援があるのではないか。経済的理由で大学進学をあきらめたり、修学旅行やタブレット購入のために教育資金の貸付けを利用している子どもがいるという事実を私たちは目の当たりにしている。

服装やご様子からは、食べるものにも困っているほど厳しい状態とは感じられなかった親子。親御さんにもプライドがあるし、どう言葉をかけようか、とても悩む。（子ども食堂活動者の声）

ひきこもり者支援、高齢者の介護予防など、多様なかたちで居場所づくりがひろがっているが、貧困という生活課題が重なってあることにより、社会との縁をつくることが非常に難しい人たちがおられる。

# さいごに。 共生社会をつくっていくということ。

日々の暮らしのなかで

「無縁社会」という社会の状況が明らかにされて10年以上がたつ。

暮らしの多様化とともに、一人ひとりのほんとうのことも外からは見えにくくなった。

## 無縁ではなく、ひたすらなるつながり

「よう来てくれた。待ってたで」

「あんたの顔見るのを楽しみにしてたんや」

なによりうれしい言葉

ひたすらなるつながり。私にも、あなたにも、どの人にも大切なもの。

「何かできるんじゃないか」と気づいた人同志が仲間になって、まずはハラゴシラエ。 小さな活動から始めたい！